

## 2007年度 卒業論文講評

2008年2月 小関 隆志

土田 将也 「食から見た日本」

外国に行って、はじめて日本の良さに気づくということがありますね。

日本の中にだけいると、つい当たり前のように感じて、良さに気づかない。

土田さんの場合は、カナダに1年間留学して、そこで改めて日本の食を見つめる機会を得られたようです。もともと日本食が好きだった土田さんは、海外で日本食がどのように受け入れられているかを目の当たりにして衝撃を受け、その原体験がこの卒業論文につながりました。

自身の強烈な原体験をもとに論文を書くのは、問題を追究する上で強い動機に支えられますし、途中で迷ったら常に原点に戻れるので、とても良いことだと思います。

論文では、日本食が海外の人々にどう受容されていったのか、どのような影響をもたらしたのかが述べられています。全ての内容を文献に頼るのではなく、土田さん自身で直接調べた部分が少しでもあればなお良かったと思いますが、限られた時間のなかでよく努力しました。